

第5回世田谷リング会議

令和元年7月6日

1

開会

2

第4回世田谷リング会議以降の経過

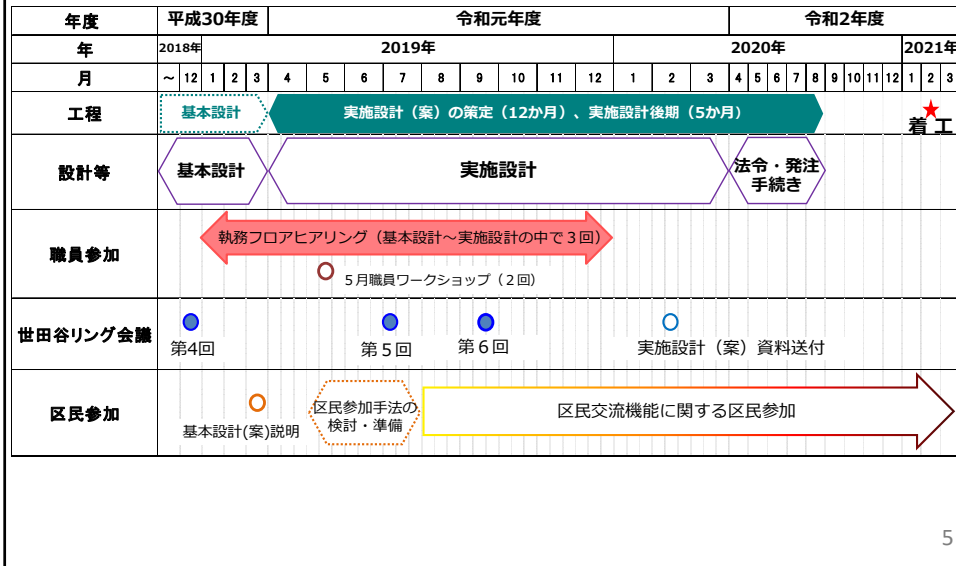
3

第4回世田谷リング会議以降の経過

- 2月上旬 基本設計（案）策定
- 3月8日 基本設計（案）近隣説明会
- 3月9日 基本設計（案）区民説明会
基本設計（案）に対する意見総数145件
（意見と区の考え方を区ホームページにて公表）
- 3月13日 基本設計（案）障害者団体対象の説明会
- 3月末 基本設計策定
- 4月～ 実施設計着手

4

第4回世田谷リング会議後の経過および着工までのスケジュール



世田谷リング会議において
委員の皆様へお願いしたいこと

- 何かを決める場ではない。
- 様々な価値観、様々な意見がある、ということ
を皆さんと設計者と区とで確認する場。
- 設計に取り入れる意見もあれば、見送る意見
もある。
- より親しまれる区役所としていくためのご意
見をいただきたい。

(前回)
第4回リング会議で意見交換した
テーマに関する「基本設計内容」の説明

7

・建物の配置・形状について

本日の
テーマ

- リングテラス(階段・スロープ)について
- 外構計画について

8

建物の全体配置の考え方について

①庁舎全体の基本高さを低層化



建物の多くは2層、3層、5層(区民会館と同程度)の低層ボリュームが占めます

9

今年度のリング会議の予定

10

(1) 第5回(実施設計編①) 本日

前回からの継続課題について

- ①リングテラス(階段・スロープ)について
- ②緑化計画について

(2) 第6回(実施設計編②) 9月23日(予定)

これまでいただいた意見のうち、実施設計で検討する項目について(想定)

- ①リングテラス・広場の設えと区民利用
 - ②外壁デザイン(形状、素材、色など)と景観
- その他
(既存建築の再価値→空間形質の継承をどのように行ったか)

**(3) 2020年2月に実施設計(案)などを委員
へ報告予定**

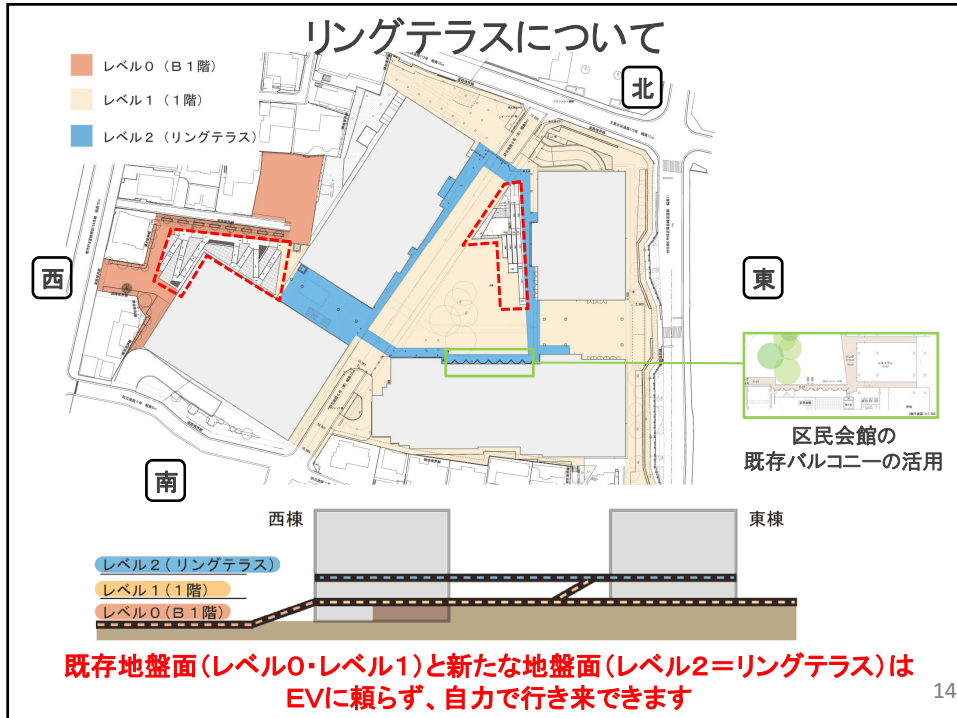
11

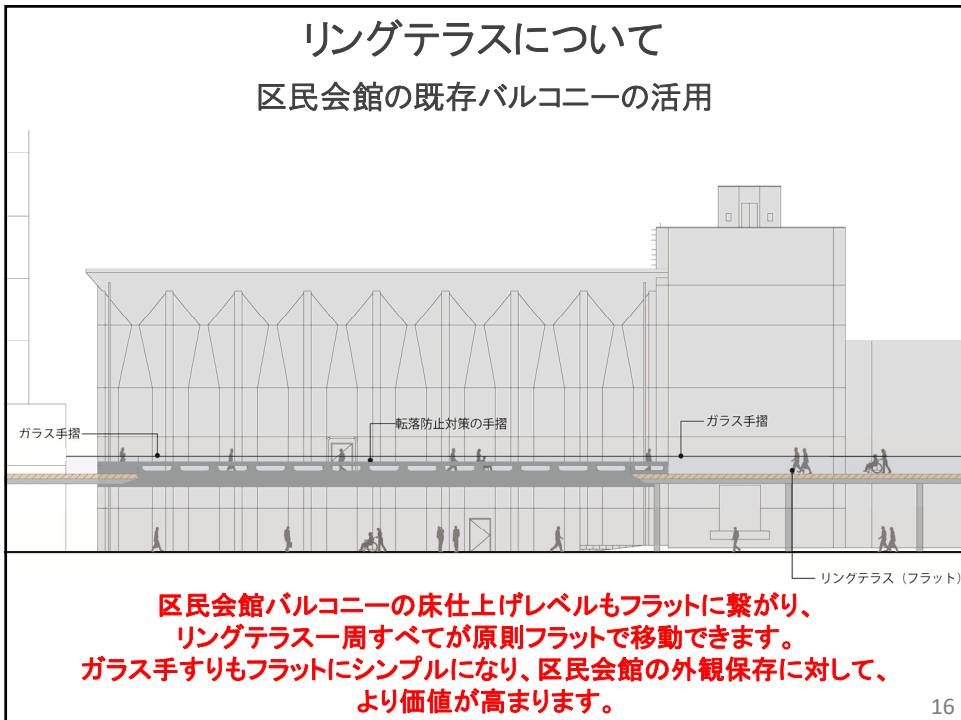
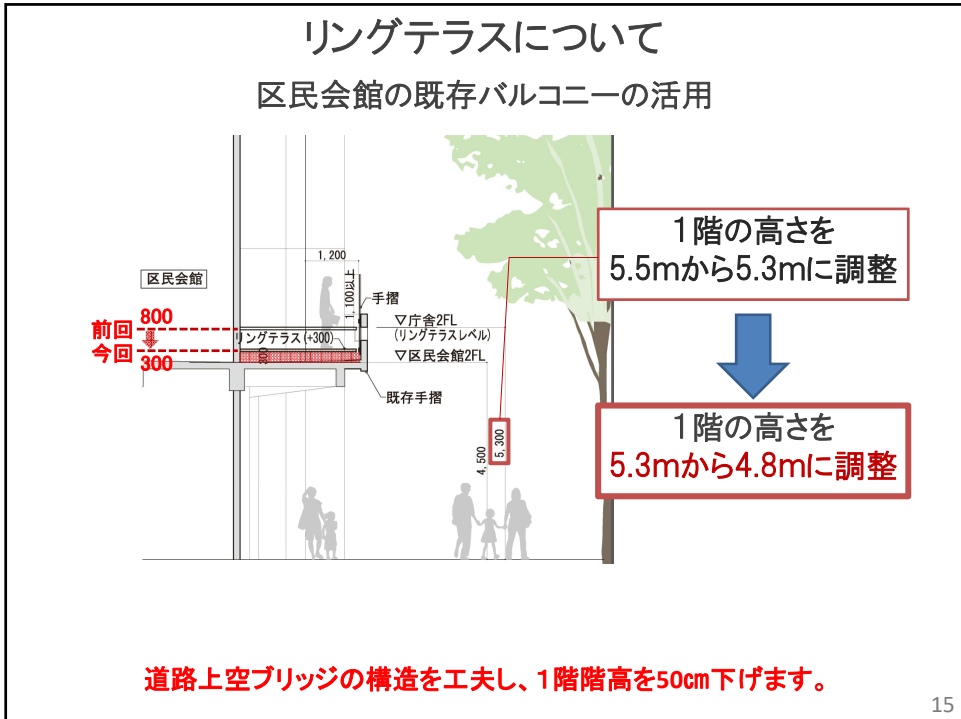
意見交換の進め方

12

テーマ1

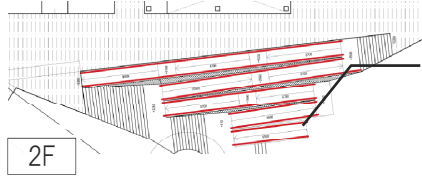
広場・リングテラスの 階段・スロープについて





スロープの設置の検討について 日常的な利用を考慮したスロープ

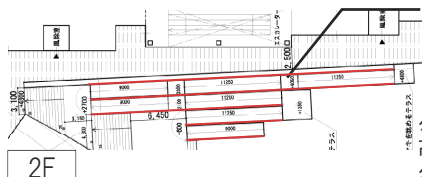
前回



勾配	1/15
高低差	5.3m
踊り場	0.700mごと(最大)
長さ	103.49m(踊り場合む)



今回



勾配	1/15
高低差	4.8m
踊り場	0.750mごと(最大)
長さ	91.15 m(踊り場合む)

勾配1/15
高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律による
勾配1/20
世田谷区バリアフリー建築条例
移動等円滑化経路に該当した場合

スロープ長さは前回検討案より、約12m短くなります

17

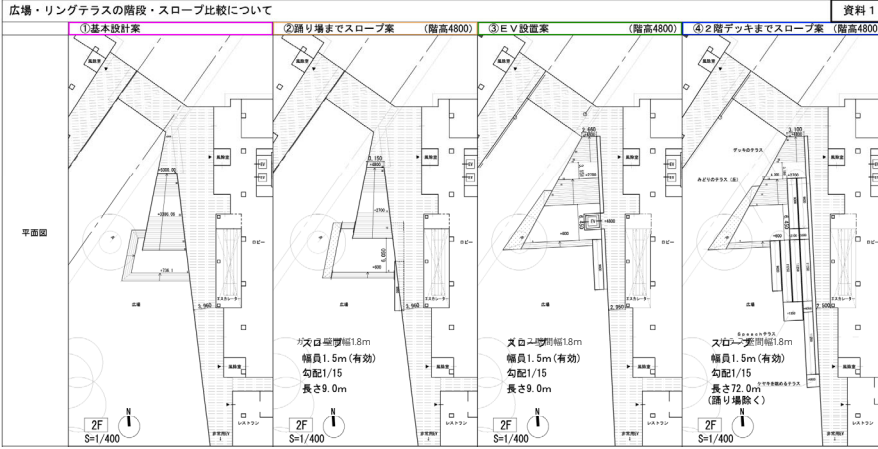
広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E.V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)	資料 1
平面図					
広場面積 (広場の解放後)	有効面積: 約2,376㎡ (実面積: 約2,520㎡)	有効面積: 約2,376㎡ (実面積: 約2,520㎡)	有効面積: 約2,400㎡ (実面積: 約2,544㎡)	有効面積: 約2,328㎡ (実面積: 約2,472㎡)	
防災安全	(A)口付近の積雪・転倒懸崖に注意	(A)口付近の積雪・転倒懸崖に注意	(A)口付近の積雪・転倒懸崖に注意	(A)口付近の積雪・転倒懸崖に注意	
出回り多様性	(A)階段を利用した多様なイベント開催可能、階段スタートの設置不要	(A)階段を利用した多様なイベント開催可能、階段スタートの設置不要	(A)階段を利用した多様なイベント開催可能、階段スタートの設置不要	(A)階段を利用した多様なイベント開催可能、階段スタートの設置不要	
管理コスト			(エレベーターの設置維持+ランニングコスト)	(スロープ部分のガラス手摺の維持)	
コスト		①=0、11億円 (広場レベル+4800mm階段までスロープ分) (②=0、11億円)	①=0、22億円 (②)+③=1、17億円	①=0、66億円 (スロープ+2階デッキ) (②)+④=0、71億円	
安全への配慮の必要性	転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要	転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要	転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要	転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要 転倒防止のため、手摺(ガラス)の取付の検討が必要	

様々なご意見を踏まえ、4案の比較検討を行いました

18

広場・リングテラス



- ・広場の使い勝手含め一体性を持つ
- ・災害支援に役立つ
- ・1階から2階ある区民交流スペースと連携した動線確保に配慮しています

広場・リングテラス

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E.V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
広場面積 (広場の解放度)	確保率◎ 面積3,316㎡ (有効面積確保率約75%以上)	確保率◎ 面積3,316㎡ (有効面積確保率約75%以上)	確保率◎ 面積4,021㎡ (有効面積確保率約75%以上)	確保率◎ 面積3,328㎡ (有効面積確保率約75%以上)
防災安全	△ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	△ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	△ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	△ (A.0)付設の階段・動線確保に良し
広場の連携性	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し
広場の多機能性	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し
管理コスト	◎	◎	△ (エレベーターの設置維持・ランニングコスト)	△ (エレベーターの設置維持・ランニングコスト)
コスト	◎	◎ ①=0.11億円 (エレベーター・スロープ付) ②=0.11億円	◎ ①=0.22億円 (エレベーター・スロープ付) ②=0.11億円	◎ ①=0.16億円 (エレベーター・スロープ付) ②=0.11億円
緊急時への対応の必要性	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し	◎ (A.0)付設の階段・動線確保に良し

①広場面積の確保

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

資料 1

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E.V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の階段)	0㎡ S=1/400	約2,376㎡ 約1,620㎡ S=1/400	約2,376㎡ 約1,620㎡ S=1/400	約2,322㎡ 約1,572㎡ S=1/400
防災安全	○	○	○	○
エレベーターへのアクセス	△	△	○	△
出回り可能性	○	○	○	○
管理コスト	○	○	△	○
コスト	○	①=0.1億円 (床厚450mm相当でスロープ9%) (②=0.116億円) ①=0.1億円 (床厚450mm相当でスロープ9%) (②=0.116億円)	①=0.23億円 (②=0.117億円) ①=0.23億円 (②=0.117億円)	①=0.66億円 (スロープ9%) (②=0.71億円) ①=0.66億円 (スロープ9%) (②=0.71億円)
安全への配慮の必要性	○	○	○	○

②広場の連続性

21

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

資料 1

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E.V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の階段)	0㎡ S=1/400	約2,376㎡ 約1,620㎡ S=1/400	約2,376㎡ 約1,620㎡ S=1/400	約2,322㎡ 約1,572㎡ S=1/400
防災安全	○	○	○	○
エレベーターへのアクセス	△	△	○	△
出回り可能性	○	○	○	○
管理コスト	○	○	△	○
コスト	○	①=0.1億円 (床厚450mm相当でスロープ9%) (②=0.116億円) ①=0.1億円 (床厚450mm相当でスロープ9%) (②=0.116億円)	①=0.23億円 (②=0.117億円) ①=0.23億円 (②=0.117億円)	①=0.66億円 (スロープ9%) (②=0.71億円) ①=0.66億円 (スロープ9%) (②=0.71億円)
安全への配慮の必要性	○	○	○	○

③広場とリングテラス間の往来 (UDの視点)

22

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

資料 1

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の解放後)	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）
床高変更	△	○	○	△
広場の歩行者 と乗り上げテラス へのアクセス としての利便性	△	△	○	△
広場の多様性	△	△	○	△
管理コスト	○	○	△	△
コスト	○	①+0.1億円 (床高レベリング等のコスト+0.11億円)	①+0.23億円 (②+0.11億円)	①+0.66億円 (スロープ+0.55億円) + (②+0.11億円)
安全性への配慮 の必要性	○	○	○	○

④活動の多様性

23

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

資料 1

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の解放後)	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）	0㎡増減 （床の面積増減約75㎡増）
床高変更	△	○	○	△
広場の歩行者 と乗り上げテラス へのアクセス としての利便性	△	△	○	△
広場の多様性	△	△	○	△
管理コスト	○	○	△	△
コスト	○	①+0.1億円 (床高レベリング等のコスト+0.11億円)	①+0.23億円 (②+0.11億円)	①+0.66億円 (スロープ+0.55億円) + (②+0.11億円)
安全性への配慮 の必要性	○	○	○	○

⑤管理コスト

24

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

資料 1

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の増設数)	増設面積: 約2,376㎡ (基本広場面積約150㎡増)	増設面積: 約2,376㎡ (基本広場面積約150㎡増)	増設面積: 約2,407㎡ (基本広場面積約150㎡増)	増設面積: 約2,322㎡ (基本広場面積約150㎡増)
防災安全	○	○	○	○
広場の歩行者 支障の少なさ へ配慮する こととしての留意点	△	△	○	△
出稼の多様性	○	○	○	○
管理コスト	○	○	△	△
コスト	○	①=0.11億円 (基本+4,400㎡増で約1,100円/㎡) (②=0.116億円)	①=0.22億円 (②)+③=1.17億円	①=0.66億円 (基本+4,400㎡増で約1,500円/㎡) (④=0.716億円)
安全性への配慮 の必要性	○	○	○	△

⑥イニシャルコスト

25

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

資料 1

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の増設数)	増設面積: 約2,376㎡ (基本広場面積約150㎡増)	増設面積: 約2,376㎡ (基本広場面積約150㎡増)	増設面積: 約2,407㎡ (基本広場面積約150㎡増)	増設面積: 約2,322㎡ (基本広場面積約150㎡増)
防災安全	○	○	○	○
広場の歩行者 支障の少なさ へ配慮する こととしての留意点	△	△	○	△
出稼の多様性	○	○	○	○
管理コスト	○	○	△	△
コスト	○	①=0.11億円 (基本+4,400㎡増で約1,100円/㎡) (②=0.116億円)	①=0.22億円 (②)+③=1.17億円	①=0.66億円 (基本+4,400㎡増で約1,500円/㎡) (④=0.716億円)
安全性への配慮 の必要性	○	○	○	△

⑦安全性の配慮

26

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の解放後)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)
床高差解消	2階へ上 スロープ・リングテラス として対応の観点	(A)口付近の積雪・転倒懸念に長引	(A)口付近の積雪・転倒懸念に長引	(A)口付近の積雪・転倒懸念に長引
出回り歩行者	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能
管理コスト	○	○	△	△
コスト	◎	①=0.1億円 (床高差解消後約150㎡増) (②=0.11億円) ①=0.1億円 (床高差解消後約150㎡増) (②=0.11億円)	①=0.23億円 (②)=0.11億円 ①=0.23億円 (②)=0.11億円	①=0.66億円 (②)=0.19億円 (③)=0.19億円 ①=0.66億円 (②)=0.19億円 (③)=0.19億円
安全等への配慮の必要性	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須

管理コスト ×から△に修正しました

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の解放後)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)	0㎡増 (+) 床高差解消後約150㎡増 (+)
床高差解消	2階へ上 スロープ・リングテラス として対応の観点	(A)口付近の積雪・転倒懸念に長引	(A)口付近の積雪・転倒懸念に長引	(A)口付近の積雪・転倒懸念に長引
出回り歩行者	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能	(A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。複数ステージの設置可能
管理コスト	○	○	△	△
コスト	◎	①=0.1億円 (床高差解消後約150㎡増) (②=0.11億円) ①=0.1億円 (床高差解消後約150㎡増) (②=0.11億円)	①=0.23億円 (②)=0.11億円 ①=0.23億円 (②)=0.11億円	①=0.66億円 (②)=0.19億円 (③)=0.19億円 ①=0.66億円 (②)=0.19億円 (③)=0.19億円
安全等への配慮の必要性	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須	積雪防止のため、床面 (②③④) の高さを階高と同様に確保し、積雪防止のためのフェーン設置が必要 階段での転倒防止が必須

「インシヤルコスト」だけでなく、「ライフサイクルコスト」の視点も追加しました

広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E.V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の解放後)	0㎡ ○ 約2,376㎡ (歩行距離増減約150m増)	0㎡ ○ 約2,376㎡ (歩行距離増減約150m増)	0㎡ ○ 約2,407㎡ (歩行距離増減約150m増)	階高がスロープで長くなり、解放後広場の面積が減少することになる。 ○ 約2,322㎡ (歩行距離増減約150m増)
防災安全 2階への上り 広場の歩行者 支障り・テラス へのアクセス として応用が利く	○ (A)日付の確保・避難経路に不利	○ (A)日付の確保・避難経路に不利	○ (A)日付の確保・避難経路に不利	○ (A)日付の確保・避難経路に不利
応用の可能性	○ (A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要	○ (A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要	○ (A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要	○ (B)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要 大規模イベント開催時にはエレベーターの設置も必要
管理コスト	○	○	△ (エレベーターの設置・ランニングコスト)	△ (エレベーターの設置・ランニングコスト)
コスト	○	◎ ①=0.1億円 (エレベーター設置費) + ②=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費) + ③=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費)	◎ ①=0.23億円 (エレベーター設置費) + ②=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費)	◎ ①=0.66億円 (エレベーター設置費) + ②=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費) + ③=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費)
安全への配慮 の必要性	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費

①案のコストが基準ですが、階段も約5千万円程度かかります

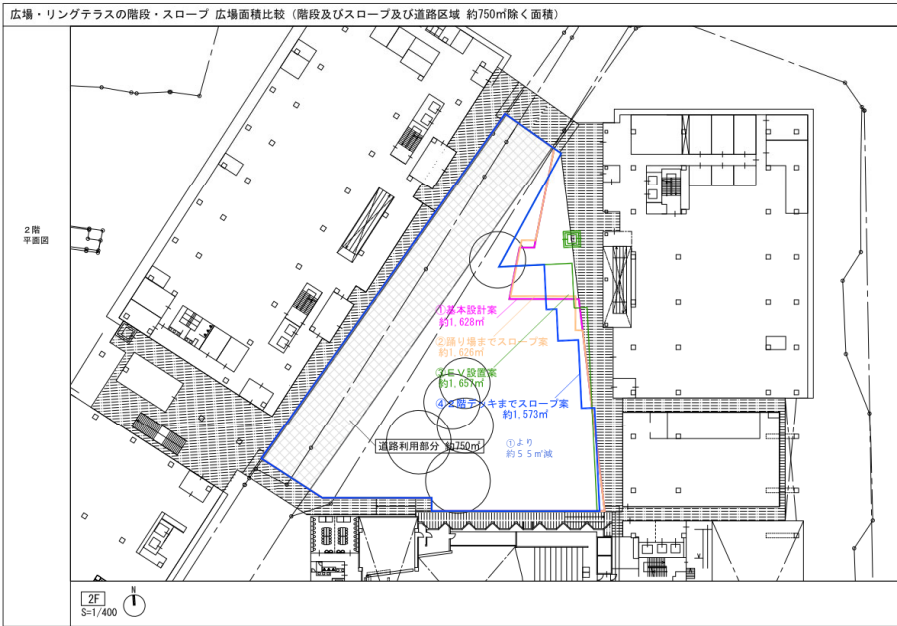
広場・リングテラス

広場・リングテラスの階段・スロープ比較について

	①基本設計案	②踊り場までスロープ案 (階高4800)	③E.V設置案 (階高4800)	④2階デッキまでスロープ案 (階高4800)
平面図				
広場面積 (広場の解放後)	0㎡ ○ 約2,376㎡ (歩行距離増減約150m増)	0㎡ ○ 約2,376㎡ (歩行距離増減約150m増)	0㎡ ○ 約2,407㎡ (歩行距離増減約150m増)	階高がスロープで長くなり、解放後広場の面積が減少することになる。 ○ 約2,322㎡ (歩行距離増減約150m増)
防災安全 2階への上り 広場の歩行者 支障り・テラス へのアクセス として応用が利く	○ (A)日付の確保・避難経路に不利	○ (A)日付の確保・避難経路に不利	○ (A)日付の確保・避難経路に不利	○ (A)日付の確保・避難経路に不利
応用の可能性	○ (A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要	○ (A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要	○ (A)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要	○ (B)階段を利用した多様なイベント開催が可能。階段ステップの設置不要 大規模イベント開催時にはエレベーターの設置も必要
管理コスト	○	○	△ (エレベーターの設置・ランニングコスト)	△ (エレベーターの設置・ランニングコスト)
コスト	○	◎ ①=0.1億円 (エレベーター設置費) + ②=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費)	◎ ①=0.23億円 (エレベーター設置費) + ②=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費)	◎ ①=0.66億円 (エレベーター設置費) + ②=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費) + ③=0.116億円 (エレベーター設置費・階段設置費)
安全への配慮 の必要性	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費	○ 階段設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費、エレベーター設置費

「ライフサイクルコスト」は60年の定期点検・ガラス清掃などを考慮しています

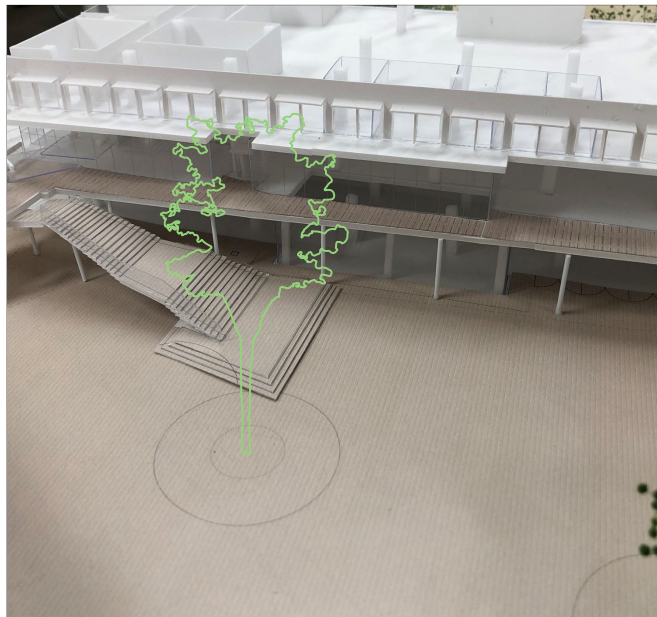
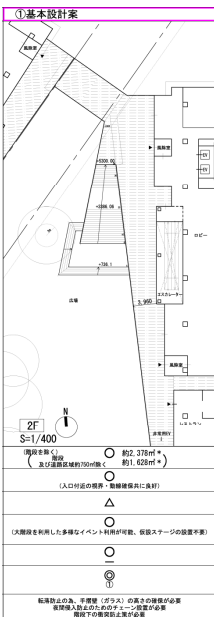
広場面積4案の比較



各案約50㎡程度の増減となります

31

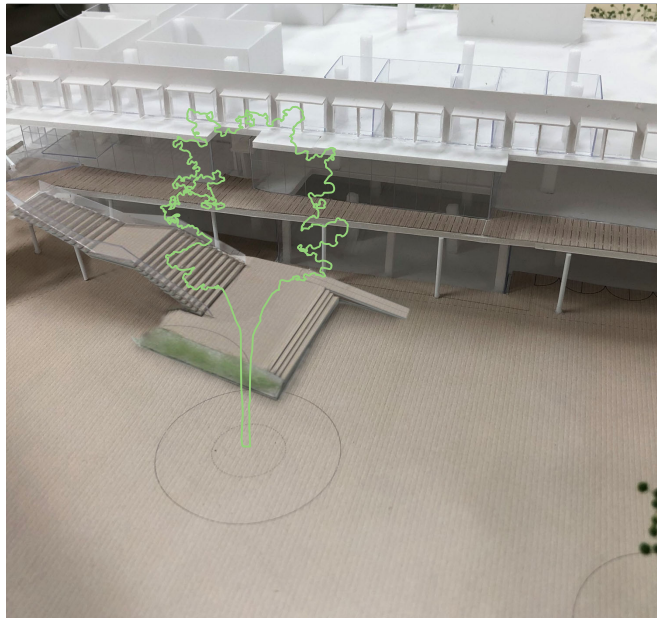
①基本設計案



一段目の踊り場をステージとし、階段を客席として、広場と一体利用ができます

32

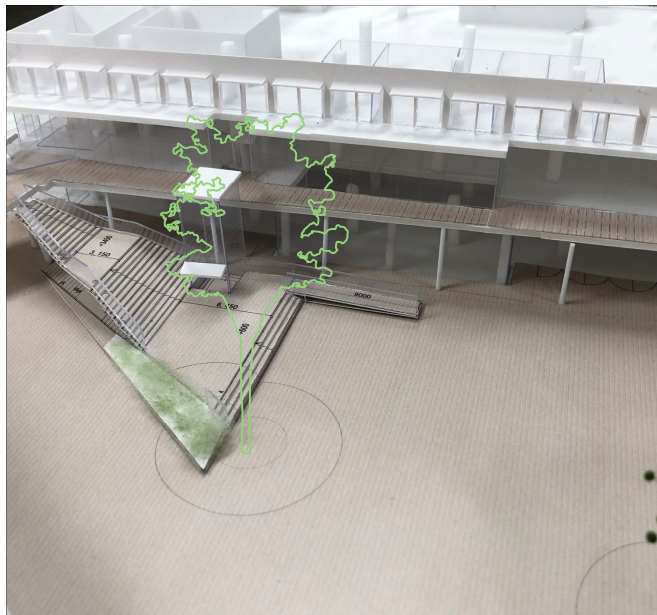
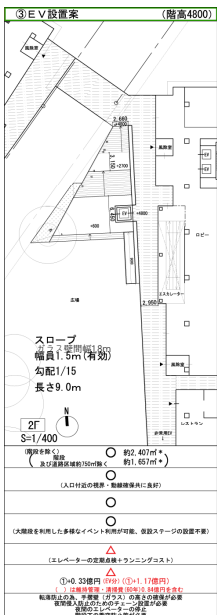
②踊り場までスロープ案



ステージを大きく確保し、車いすの方のステージ利用が可能です

33

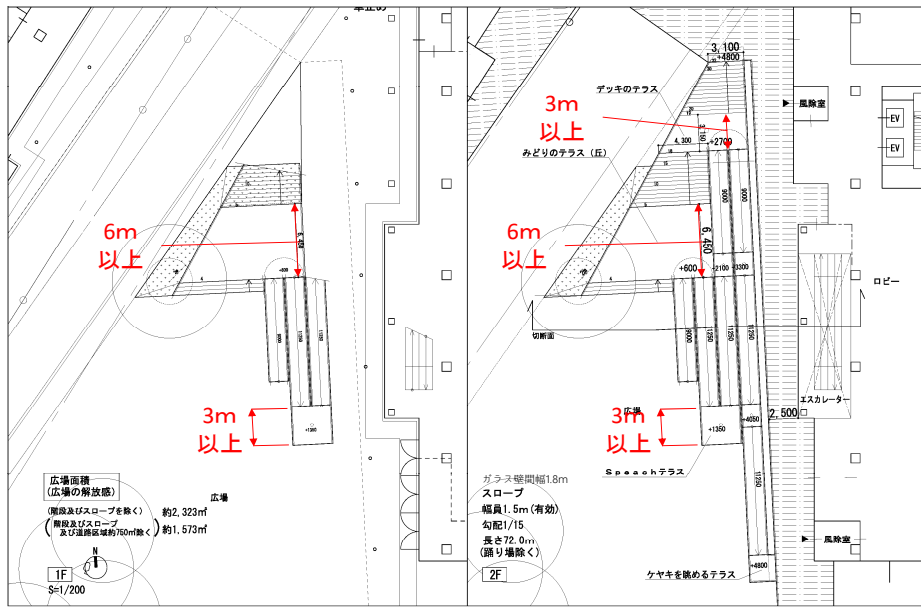
③EV設置案



シースルーEVで、2階リングテラス・ステージへの移動が可能です

34

④2階デッキまでスロープ案

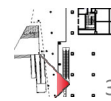


踊り場での車いすとの回転に、支障のない奥行を確保しています

区民交流スペース(東棟1階)から見たスロープ



スロープ下の視線の抜け、広場との一体利用に配慮します



リングテラス下部(東棟北側)から見たスロープ



様々なファッションに対する視線の配慮として、
 ガラス手すり下部(高さ60cm)は透明フィルムを貼ります
 スロープ下に緑化を施し、侵入・衝突防止対策とします



39

西側アプローチ 階段・スロープ検討案について

40

前回提案

前回

②スロープと階段を一体型にする 案

②「スロープと階段を一体型にする」ご意見に対する検討	
勾配	1/15 (UD条例の移動等円滑化経路は別に確保する)
高低差	5.0m
踊り場	0.783mごと(最大)
長さ	127.75m(踊り場含む)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープの長さが長く、日常的利用は期待できない。 ・スロープに手摺を設置する必要があり、池袋サンシャインのように、おらかな階段スロープとはならない。

※スロープには手すりが必要。
踊り場は移動等円滑化経路に
該当しない場合は立上り不要

前は、階段利用者と車いす利用者が衝突する危険の指摘をいただきました

41

検討案

今回

階段利用者とスロープ動線に分け、回転スペースの奥行をしっかり確保し、安全対策を行います

42

検討案

今回



公園の散策路のイメージで設え、緑化面積も増やしています

43

検討案

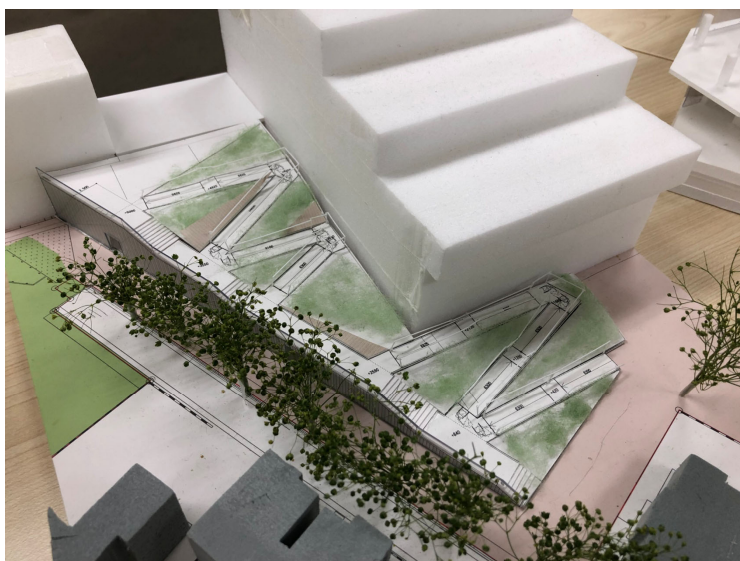
今回



EVは、階段の正面に配置し、EVの視認性も向上します

44

西側アプローチ 階段・スロープ検討案について



公園の散策路のイメージ

45

世田谷リング会議への
世田谷区ユニバーサルデザイン審議会に
おけるご意見のご紹介

46

ユニバーサルデザイン審議会とは

■ ユニバーサルデザイン審議会は、

「世田谷区ユニバーサルデザイン推進条例第8条」の規定に基づき、区的生活環境の整備に関する施策を総合的かつ計画的に推進する上で必要な事項を調査審議するため設置された、区長の附属機関。

■ 審議会委員は、

区長が委嘱した学識経験者及び区民、事業者の18名で構成される。

47

■ 本庁舎等整備は、

審議会の調査審議対象である

「世田谷区ユニバーサルデザイン推進計画（第2期）後期（平成31年3月）」の中で、施策・事業No.7「本庁舎のユニバーサルデザインによる整備推進」として位置づけられている。

48

No.	【施策・事業名称】			
7	ユニバーサルデザインによる本庁舎の整備推進			
所 管 部	庁舎整備担当部、施設営繕担当部、都市整備政策部			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎等整備を機に、ユニバーサルデザインの考えを導入し、すべての人が利用しやすい庁舎をめざす。 ・周辺からのアクセスも含めた、庁舎全体の案内等について、すべての人に分かりやすく、利用しやすい、人にやさしい庁舎整備を進める。 			
取 組 みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・設計段階から検討会等を実施し、多様な区民のニーズを把握し設計に反映させる。また、施工段階においてサイン等の内容を示し、UDアドバイザーや当事者、区民の参加により整備を進める。 ・多機能トイレの機能分散^{※8}をはかるなどトイレ空間の充実を検討する。 ・検討の取組み等について情報発信を行う。 			
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・No.3「ユニバーサルデザインに取り組むアドバイザーの人々の活躍の場を広げ、多くの人が参加できる取組みの推進」と連携して実施する。 			
◆後期計画（2019～2022年度）				
年次	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
取 組 み	●基本設計段階で実施した検討会等を検証	⇒検討会等の検証	⇒継続	⇒継続
	●実施設計段階で、UDアドバイザー等を入れた検討会の開催		⇒施工段階に向けたサイン計画の検討	⇒サイン計画の提案
	●先進事例の収集・視察			

世田谷区ユニバーサルデザイン環境整備審議会 (令和元年7月4日)

【ご意見を伺ったポイント】

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

■補助154号線から広場へつながる大階段について

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員1

予測しえない災害でEVが使えない場合を想定すると、スロープはあったほうがよい。
ただし、この4案から最良案を確定するのではなく、意見を踏まえてユニバーサルデザインの議論を深まれば。

51

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員2

区民会館側など広場全体を取り込んだスロープはできないか。
大階段ありきではない計画を検討できないか。

52

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員3

④案は、スロープの機能は果たしていても、後付の計画のため、こだわっていた大階段の意匠も壊している。
意匠を守るのであれば、大階段の三角形の形もやめて、最初からスロープを前提をした設計・意匠とするべき。
大階段と共存する考えは難しい。

53

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員4

ユニバーサルデザインを考えると誰もが楽しめることが大事。
ユニバーサルデザインの普及啓発の観点からみると、④案で解決したといっても、利用する人は楽しくない。

54

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員5

階段の設計後にスロープをつけて対応した、
というのは、「ユニバーサルデザイン」でなく、
「バリアフリー」である。
「ユニバーサルデザイン」の観点からすると
④案は厳しい。

55

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員6

手動車椅子で100m程のスロープをひたす
ら上るのは辛い。
スロープがあるのはとても嬉しいが、辛い思
いをして上った到達点がリングテラスというの
は悲しい。

56

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員7

いかに同じ空間を、どのように共有できるかが大事。

身体障害者にはエレベーターがあるから大丈夫、経路、通路があるから大丈夫、機能的に大丈夫、という発想は変えてほしい。

57

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員8

みんなが使うところを、みんなと一緒に使っていれば、いざという時にも、みんなと一緒に逃げられる。

58

■リングテラスと広場を結ぶ大階段について

委員9

階段自体をなくすことは可能か。

59

■補助154号線から広場へつながる大階段の スロープ併設案について

委員1

スロープがただの解決策ではなく、植栽や、間にベンチがあることによって、付加価値となっているのがよい。

60

**■補助154号線から広場へつながる大階段の
スロープ併設案について**

委員2

西側スロープの北側の側面がグランドレベルの歩道から見た際に、とても薄暗い空間になる可能性が高い。

特に夜間などはこの通路を歩く際にとっても怖さを感じるのではないか。設計上の工夫を。

61

**■補助154号線から広場へつながる大階段の
スロープ併設案について**

委員3

スロープの踊場の寸法が、踊場ごとに違う。

2つめの踊り場は回転が難しい。

踊場に車椅子の後輪が乗ってから回転しないと、体の重心が傾き、体に負荷がかかる。

踊場の形状は見直す必要がある。

62

■補助154号線から広場へつながる大階段の
スロープ併設案について

委員4

四輪とも平場に上がってから回転できるように、平場部分は多くとる必要がある。

63

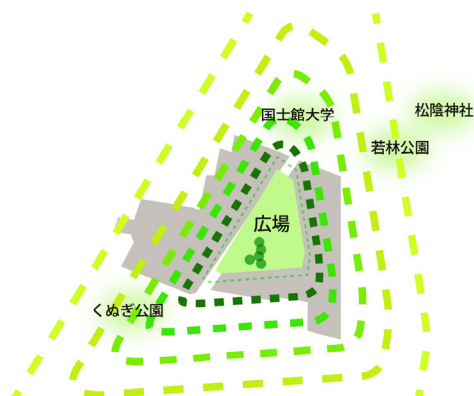
テーマ2

緑化計画について

64

基本設計のまとめについて

2つのコンセプト「みどりの波紋」と「武蔵野の雑木林」



コンセプトは「みどりの波紋」と「武蔵野の雑木林」です
敷地みどりの周辺に対して、「波紋のようにつながり広がっていく」という考え方で⁶⁵

基本設計のまとめについて

■整備方針

- ①地域の植生に即した樹種の導入
- ②樹木の保全・再生・発展
- ③生涯学習の場(環境学習)づくり
- ④雨水流出抑制
- ⑤壁面緑化(斜面地緑化)

基本設計のまとめについて

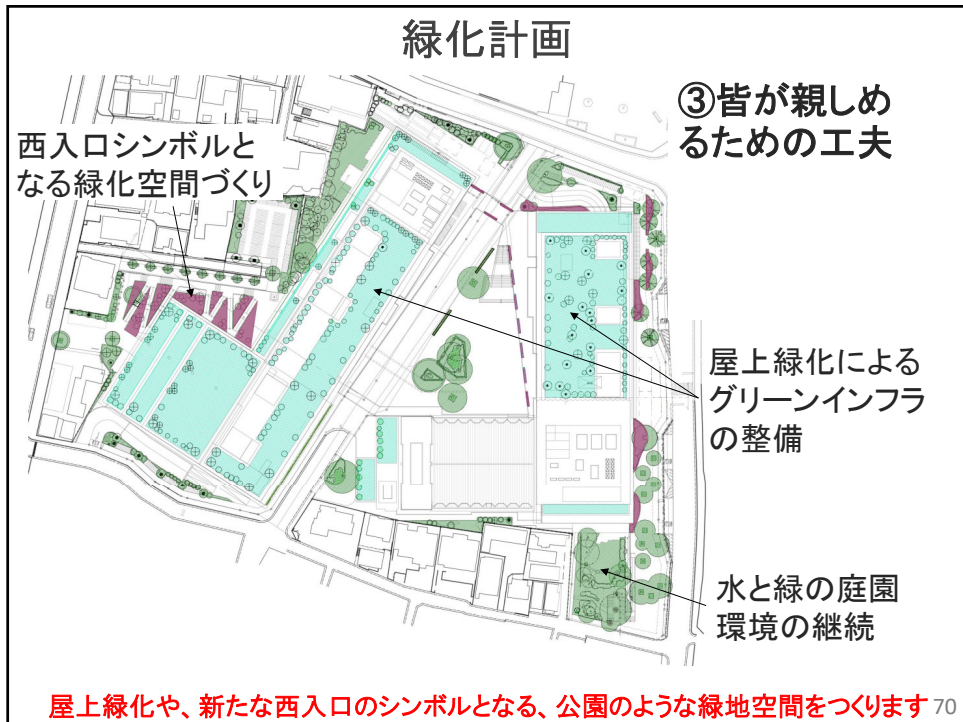
■植栽計画について

- ①みどりを活用した様々な活動
- ②ケヤキ並木などのみどりの空間を再生・発展
- ③皆が親しめるための工夫
- ④近隣への配慮
- ⑤既存樹木の取扱い

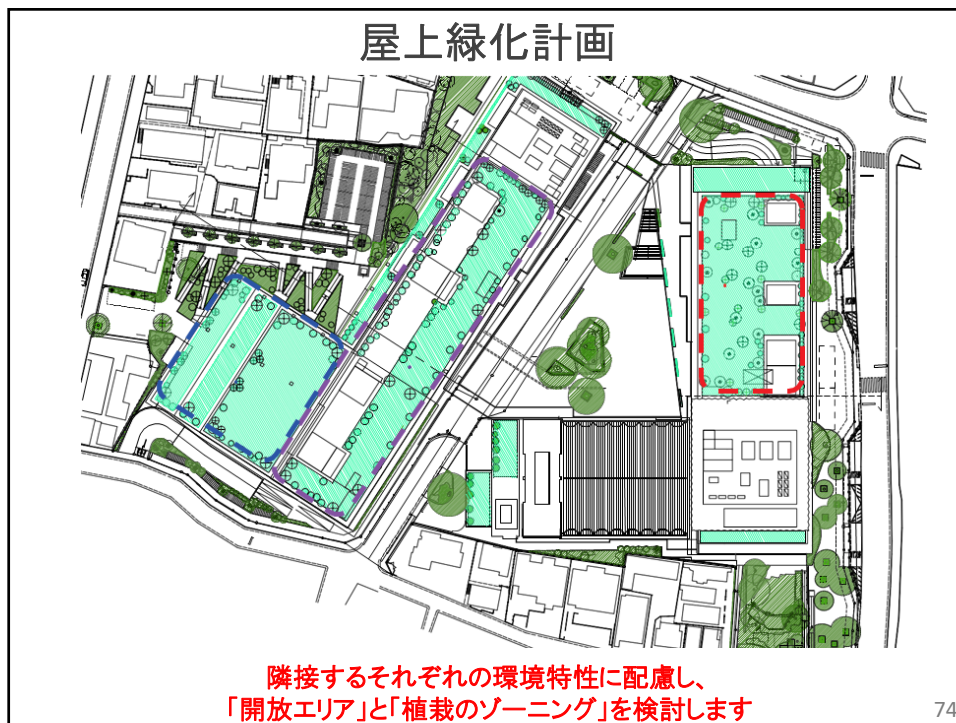
67

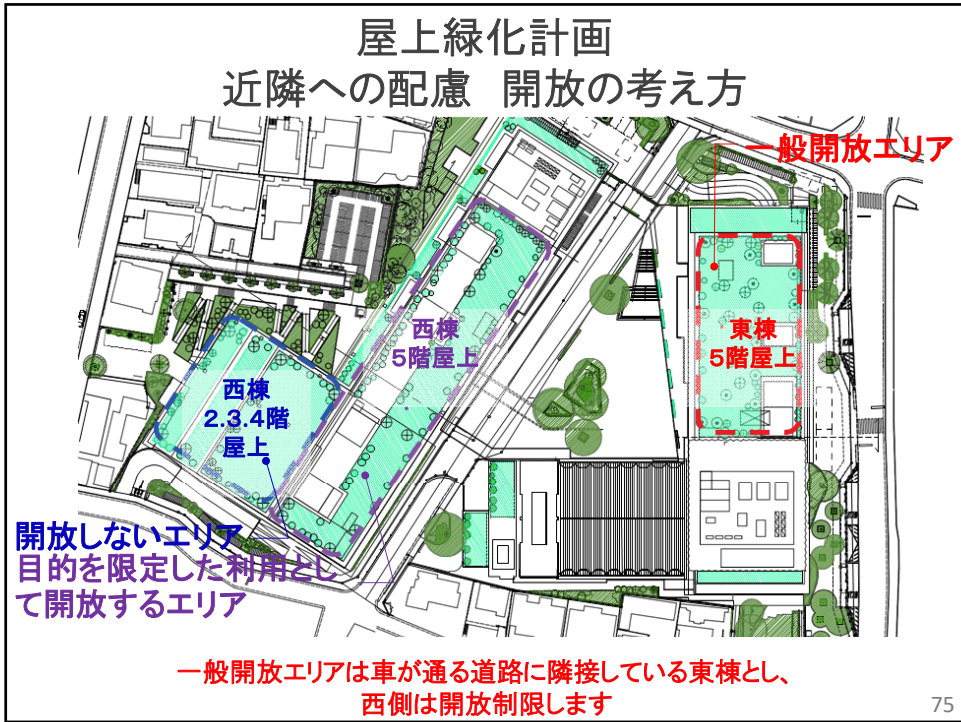


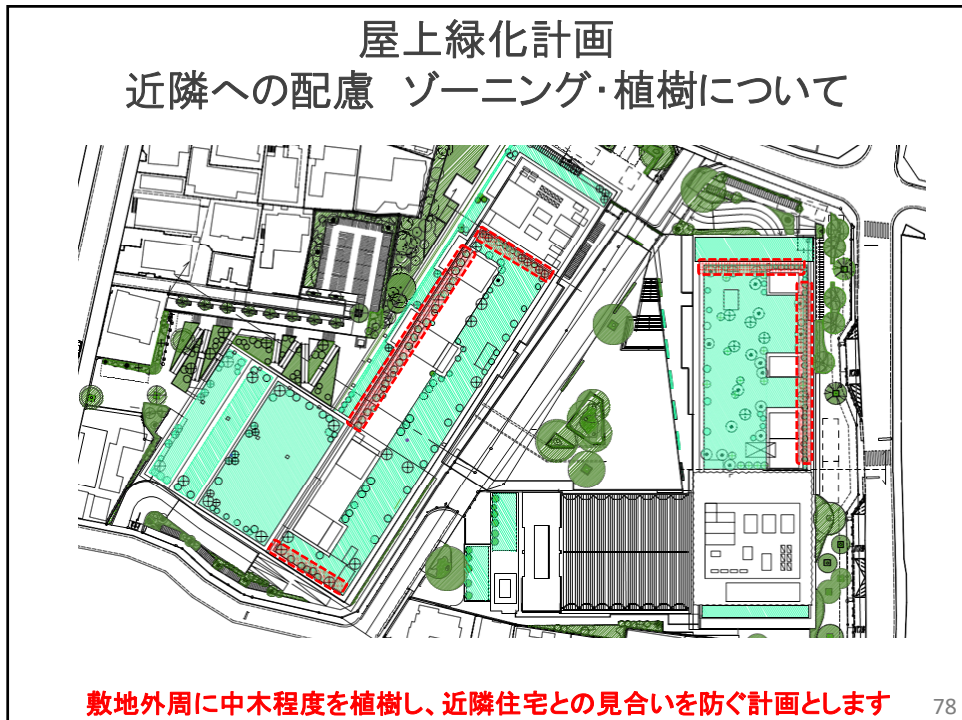
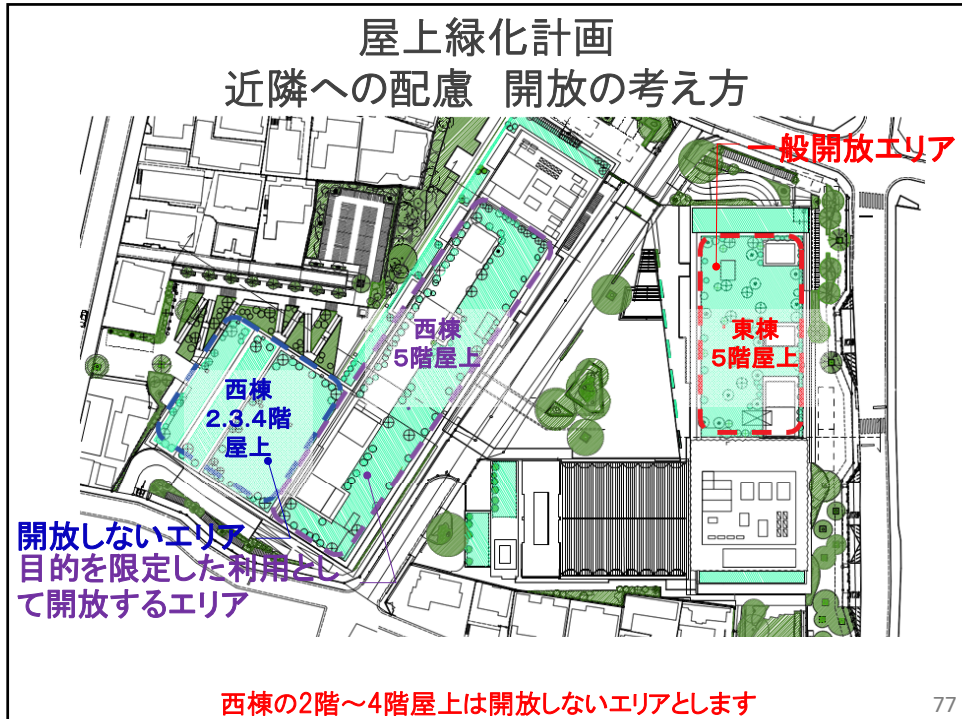
68



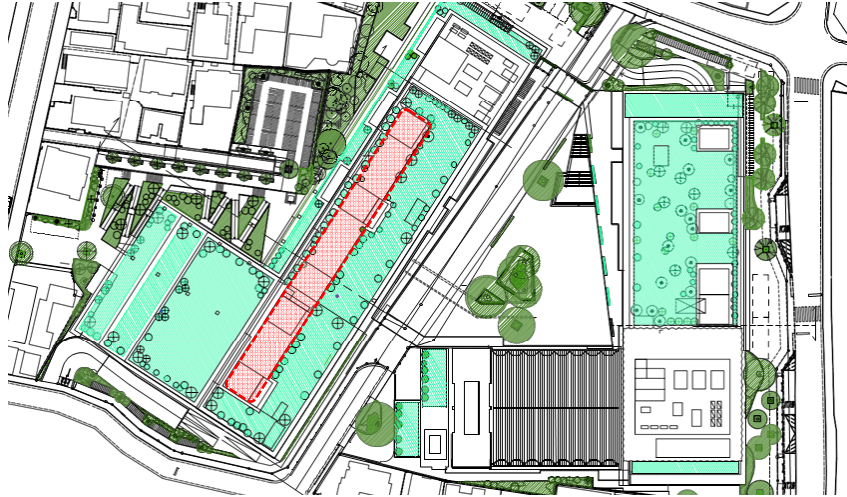






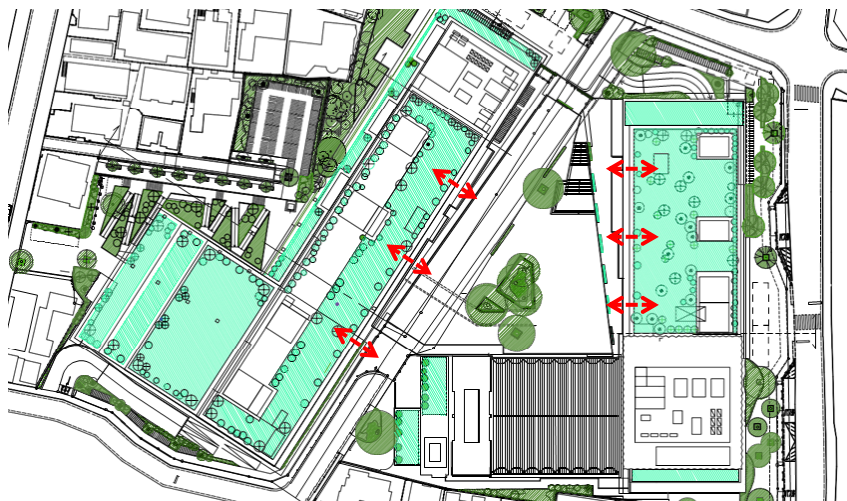


屋上緑化計画
近隣への配慮 ゾーニング・植樹について



近隣エリアの緩衝空間として、太陽光パネルを西棟西側にまとめて配置します 79

屋上緑化計画
近隣への配慮 ゾーニング・植樹について

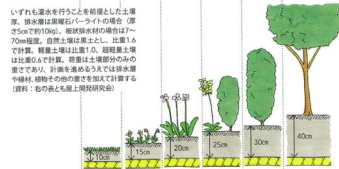


中央広場側は、中低木中心に、見通しのきく中・低木主体の植栽計画とします 80

屋上緑化計画 前提条件

■植物大きさによる必要土壌厚と荷重

植物の大きさ	芝生	樹高1m未満の樹木	樹高1.5m未満の樹木	樹高2m未満の樹木	樹高2.5m未満の樹木	樹高3m未満の樹木	樹高3.5m未満の樹木	樹高4m未満の樹木
土壌の厚さ	5~10cm	10~30cm	30~40cm	40~120cm	120~200cm	200~400cm		
排水層の厚さ	3cm以上	5cm以上	5cm以上	5cm以上	5cm以上	5cm以上	5cm以上	5cm以上
自然土壌	160kg/m ²	240kg/m ²	320kg/m ²	400kg/m ²	480kg/m ²	640kg/m ²		
軽質土壌	100kg/m ²	150kg/m ²	200kg/m ²	250kg/m ²	300kg/m ²	400kg/m ²		
超軽質土壌	40kg/m ²	90kg/m ²	120kg/m ²	150kg/m ²	180kg/m ²	240kg/m ²		



屋上緑化研究会資料より

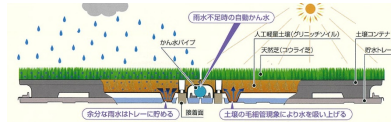
■上記荷重に植物の重さを加えた場合(超軽量土壌と比較)

工法	植物種類	樹高(1/3幅)	樹木径	中木(2m樹高)	苗木(4m樹高)
自然土壌工法	自然土壌(cm)	25	35	45	60
	排水層(cm)	8	12	15	20
	重量(kg/m ²)	448	632	810	1,032
改良土壌工法	自然土壌(cm)	20	20	35	45
	排水層(cm)	7	10	12	15
	重量(kg/m ²)	302	450	527	675
軽量土壌工法	マルチング(cm)	2	2	2	2
	軽量土壌(cm)	15	20	30	40
	重量(kg/m ²)	5	7	10	13
超軽量土壌工法(樹木・草花専用)	マルチング(cm)	2	2	2	2
	軽量土壌(cm)	15	20	30	40
	重量(kg/m ²)	3	3	3	3
超軽量土壌工法(樹木・草花専用)	マルチング(cm)	2	2	2	2
	超軽量土壌(cm)	3	3	3	3
	重量(kg/m ²)	153	195	280	365

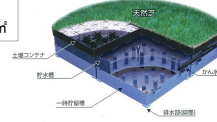
- ・屋上の設計荷重を300Kg/m²とすると、芝生・草花類をベースに中木・高木の割合を少なく配植する緑地が標準となる。
- ・雨水貯留の荷重を加える場合は、中木・高木の配植を限定。

■屋上緑化の植栽基盤に雨水貯留機能を持たせる事例

- ・植栽基盤の下に雨水をためるトレイを置き、植物の冠水や雨水の一時貯留を行う。
- ・芝生部分など荷重の小さい基盤に導入：+48kg/m²、貯留量=15L/m²



- ・雨水貯留を主目的にした例：+195kg/m²、貯留量=600L/m²

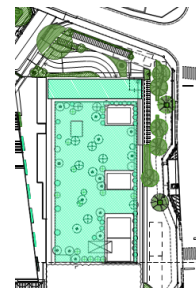


雨水貯留分・土壌・植栽の重さを合わせた十分な荷重条件を想定し、安全最優先で屋上の構造設計を進めますが、中木・高木の配置は限定されます 81

屋上緑化計画 東棟5階屋上について

【公園のような屋上パーク】(Ex「天空パーク」と名付ける)

- ・約 1,000 m²(約 18m×55m)の公園的緑化空間
- ・中央の芝生広場とその外周を回遊する園路で構成。
- 園路沿いは地域の雑木林のような多様な植栽環境を創出。
- ・園路沿いは、地域の自然環境を再現した空間とし、カントリーヘッジ・自然観察解説板などを設置。
- ・その他ベンチ・水飲み・ミストなど。



芝生広場や園路を整備し、雑木林で木陰をつくりながら、居心地よい環境を整えます 82

屋上緑化計画 東棟5階屋上について

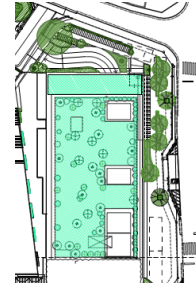
【公園のような屋上パーク】(Ex「天空パーク」と名付ける)

- ・約 1,000 m²(約 18m×55m)の公園的緑化空間
- ・中央の芝生広場とその外周を回遊する園路で構成。

園路沿いは地域の雑木林のような多様な植栽環境を創出。

- ・園路沿いは、地域の自然環境を再現した空間とし、
カントリーヘッジ・自然観察解説板などを設置。

- ・その他ベンチ・水飲み・ミストなど。



その他、カントリーヘッジ(木や石など人工物を使わないで作った柵)や
自然観察解説サイン・ベンチ、水飲み・ミストなど、皆が楽しめる仕掛けを計画します⁸³

屋上緑化計画 西棟5階屋上について

【世田谷の自然環境を切り取った野草パーク】

- ・管理の省力化を考慮し、世田谷の野草を主体とした野趣のある草原をイメージ。地域の林床や水辺、草原などの自然環境を切り取った環境を創出。
(例:区民による「表土持ち寄りイベント」など)
- ・高中木は屋上の外縁部や機器類の目隠し程度の必要最小限とする。
- ・屋上は、登録団体や申し込みによる限定利用とし、簡易な自然観察路で巡る約1,200 m²(約12m×100m)の草原的緑化空間とする。



例えば、世田谷各地の表土を持ち寄るイベントを行い、
世田谷の自然環境を皆の手で、育てていくことを考えています

84

屋上緑化計画 西棟5階屋上について

【世田谷の自然環境を切り取った野草パーク】

- ・管理の省力化を考慮し、世田谷の野草を主体とした野趣のある草原をイメージ。地域の林床や水辺、草原などの自然環境を切り取った環境を創出。
(例: 区民による「表土持ち寄りイベント」など)
- ・高中木は屋上の外縁部や機器類の目隠し程度の必要最小限とする。
- ・屋上は、登録団体や申し込みによる限定利用とし、簡易な自然観察路で巡る約1,200㎡(約12m×100m)の草原的緑化空間とする。




野草を主体とすることで、管理の省力化も図れます

85

グリーンインフラの考え方について

7. グリーンインフラとは(当面)(イメージ)

国土交通省

<社会的課題>

- 安全・安心で持続可能な国土
- 国土の適切な管理
- 生活の質の向上
- 人口減少・高齢化に対応した持続可能な社会の形成

※第4次社会資本整備重点計画、国土形成計画より、グリーンインフラに関連する課題を抜粋

<自然環境が有する機能>

- ・良好な景観形成
- ・生物の生息・生育の場の提供
- ・浸水対策(浸透等)
- ・健康、レクリエーション等文化提供
- ・延焼防止
- ・外力減衰、緩衝
- ・地球温暖化緩和
- ・ヒートアイランド対策等

<多様な効果>

防災・減災

+

環境

+

地域振興

グリーンインフラ

○防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

○持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

16

「グリーンインフラストラクチャー ～人と自然環境のより良い関係を目指して～」
(国土交通省総合政策局環境政策課 平成29年3月作成) より抜粋

国土交通省の指針では、「自然や雨水などをできるだけ利用し、環境配慮・減災・地域振興につなげていこう」という考えです

86



閉会

91